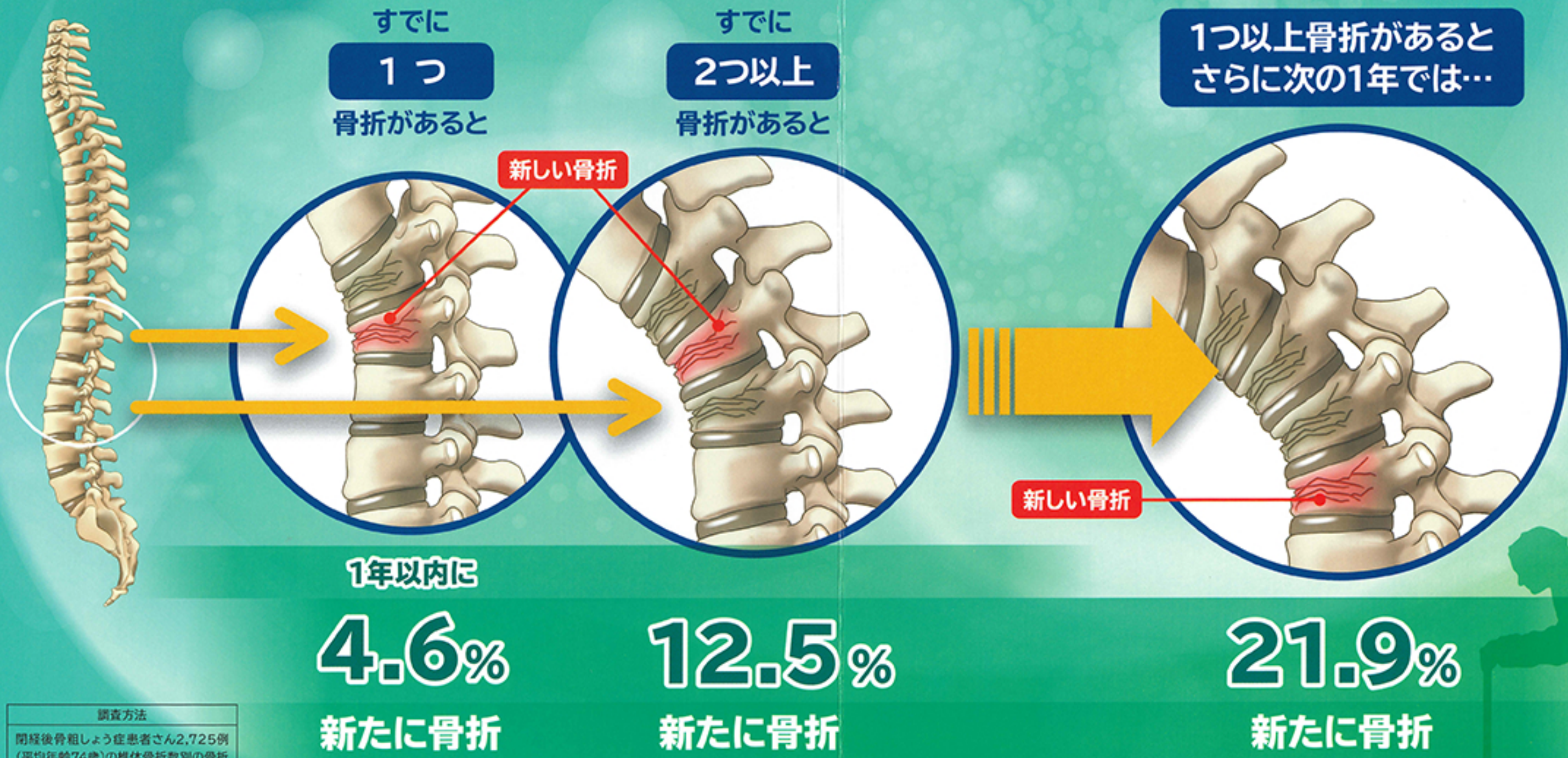


背骨に骨折(圧迫骨折)があると、新たな骨折が起こりやすくなります。

1年以内

次の1年



調査方法
閉経後骨粗しょう症患者さん2,725例(平均年齢74歳)の椎体骨折数別の骨折発生率を調査した。

Lindsay R et al. JAMA. 2001;285(3):320-323. より作図

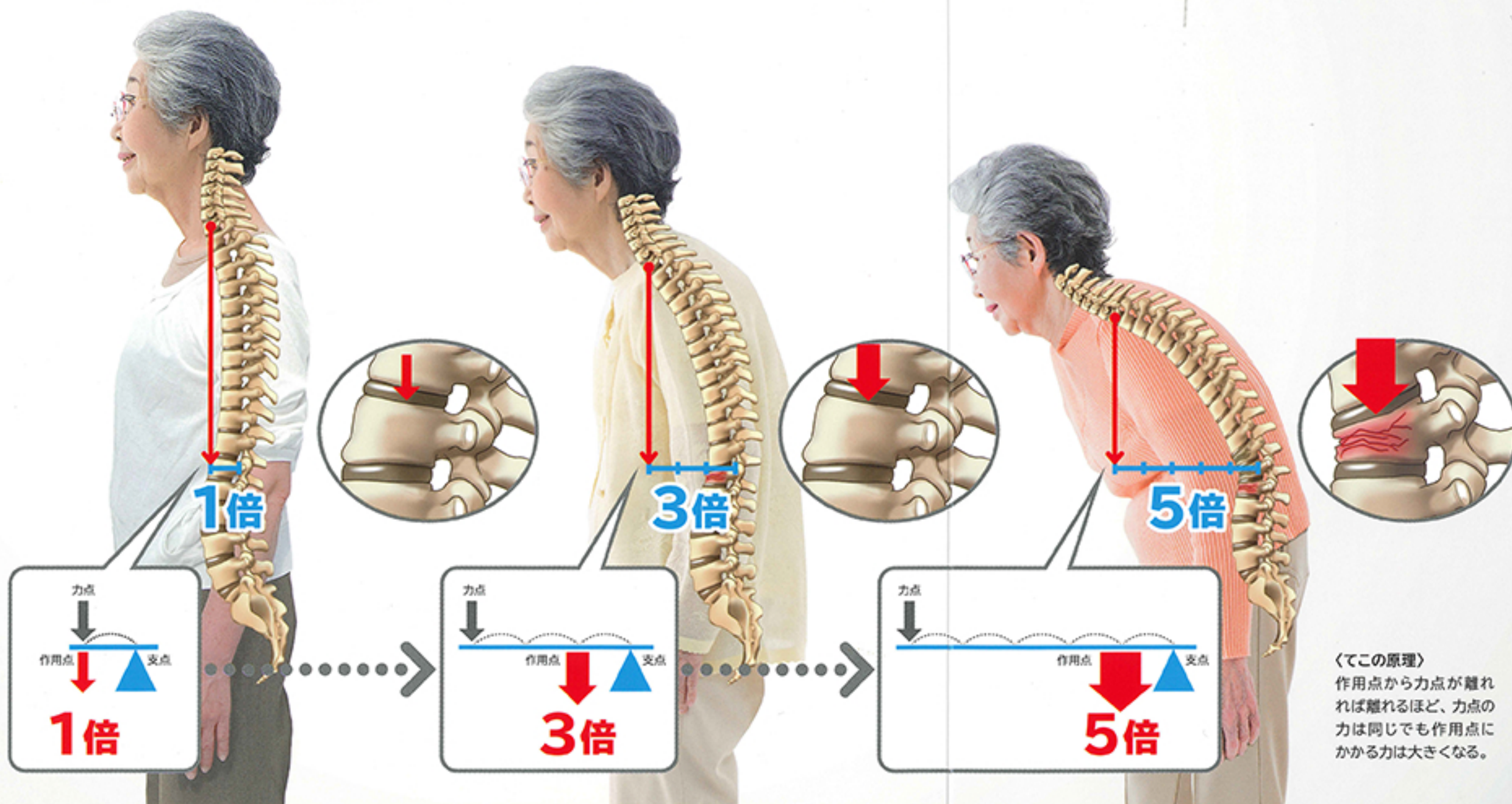


提供：旭化成ファーマ株式会社

GATE3190000001
2019年3月作成

背中や腰がまがると、背骨の骨折(圧迫骨折)が起こりやすくなります。

姿勢が前かがみになるほど、背骨(椎体)にかかる力が大きくなり、新たに圧迫骨折が起こりやすくなります。



〈この原理〉
作用点から力点が離れれば離れるほど、力点の力は同じでも作用点にかかる力は大きくなる。

骨折連鎖、姿勢変化による影響

慢性痛

関節や筋などが痛む

転倒

バランスがとれず転びやすくなる

歩行障害

背中が伸びず上手く歩けない

胸やけ

前かがみで腹圧が上昇し胃酸が逆流

生活の質

家事や移動が困難など生活が不自由、姿勢変化による劣等感

Myoishi N. Bone Joint Nerve. 2015; 5(2): 265-271
骨粗しょう症の予防と治療ガイドライン作成委員会編・骨粗しょう症の予防と治療ガイドライン
2015年版

姿勢がかわらない段階から、早めに治療を

【監修】宮腰 尚久 先生 秋田大学大学院医学系研究科 医学専攻機能展開医学系整形外科学講座・准教授

- 骨粗しょう症の患者さんでは、圧迫骨折の数が多いほど、新たな骨折を起こしやすいことが知られています。これは、前傾姿勢が大きくなるほど、骨に加わる力が大きくなるからです。
- 圧迫骨折による姿勢の変化は、このほかに背中や腰の痛み、歩行障害による転倒・骨折、胃酸の逆流・胸やけなど、さまざまな障害を起こし、生活の質を低下させます。
- すでに圧迫骨折がある方は、姿勢がまだ正常な段階から骨折抑制効果のあるお薬で治療をはじめることが大切です。